

市議会12月定例会 市長所信



市議会令和4年12月定例会が、12月5日から23日までの19日間の日程で開催されました。開会日に、当面する市政の重要施策について、表原市長が所信を表明しました。抜粋して要旨部分のみを掲載します。全文は、市ホームページで公開しています。また、後日作成する市議会会議録は、市立図書館等で閲覧することができます。

育休退所の新たな方針について

本市では、育児休業により家庭での保育が可能となった場合には保育所を退所していたが、育児休業終了後の職場復帰など保育の必要性の高い方の入所を優先するいわゆる育休退所を、段階的に要件を緩和しながらも行ってきましたが、こうした取り扱いについては、議員各位をはじめ多方面から早期の制度撤廃について強いご指摘をいただいております。

こうした中、本市の待機児童数は、令和4年4月1日から11月1日現在まで待機児童ゼロを継続しており、来春には羽ノ浦地区の民間による幼保連携型認定こども園の開園を控えていることなどを踏まえ、協議・検証を行った結果、令和5年4月入所時からの育休退所について、新たな方針を取りまとめることとしました。

具体的には、これまで3歳児から5歳児に限り継続利用を可能としていた年齢制限を廃止し、すべての年齢の児童について、育児休業に係る子が1歳の誕生日を迎える月末まで継続利用を可能とします。また、1歳を迎える

児童が保育所等の空きがなく入所できない場合には、6カ月の延長・再延長を可能とし、最長で2歳の誕生日の月末まで継続利用でできることとします。

子育てに対する保護者ニーズが多様化する中、今後も子育て世帯を中心とした関係者の皆さまの声に丁寧に耳を傾け、子育て環境のさらなる充実に取り組んでまいります。

高齢者等への バス券交付事業について

年齢70歳以上で前年度市町村民税所得割額が5万円以下の方に、年間72枚の無料回数券を交付する高齢者特定回数乗車券等交付事業は、令和3年度に実施した阿南の未来「自分ごと」会議において、要改善の判定を受け、「利用率向上のためには回数券よりもフリーパスの交付が有効」「バス路線を利用できない地域の人に対してバス以外の移動手段が選べる仕組みを検討するべき」等の意見をいただいております。

こうしたご意見、また利用者の声を踏まえ、

若杉山辰砂採掘遺跡の 整備活用に向けて

令和4年11月18日、国の文化審議会から文部科学大臣に対し、県が所有する若杉山辰砂採掘遺跡出土石器を国の重要文化財に指定することについての答申がなされました。

若杉山辰砂採掘遺跡から発見された石器類は、「わが国先史時代における朱の生産の実態を示す、極めて学術的価値の高い資料である。」との評価がなされております。

また、本遺跡は令和元年10月に国の史跡に指定されており、これを契機として令和4年3月には本史跡を適切に保存し、未来に向け正しく継承するため、保存活用計画を策定し、本年度には、速やかな活用整備事業の実施をめざすため、整備基本計画の策定を進めています。



徳島県若杉山辰砂採掘遺跡出土石器

本史跡は全国的にも注目されており、地域活性化に繋がる可能性を大いに有していることから、今後も史跡の整備・活用に向け、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

JR牟岐線の在り方について

JR牟岐線の阿南駅以南については、鉄道

市民ニーズを反映した制度のあり方について検討を重ねた結果、令和5年度から利用機会の拡大を推進するため、これまでの交付要件に身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方を加えるとともに、バス券の交付枚数の制限をなくす、いわゆるバスフリー乗車券を導入し、高齢者の利便性の向上を図り、バスの利用促進にもつなげていきます。

くわえて、自分ごと会議でいただいた意見を踏まえ、また阿南市地域公共交通計画に掲げた高齢者の移動手段を確保する視点から、新たに高齢者向けタクシー利用助成制度の導入についても前向きに取り組んでまいります。

スポーツ総合センターへの ネーミングライツ制度の導入

令和4年7月に阿南市スポーツ総合センターのネーミングライツパートナー募集を行った結果、阿南信用金庫の1団体から応募があり、庁内の審査組織にて、阿南信用金庫を選定し、契約を締結することとなりました。

利用者の多くを占める学生の減少や社会情勢の変化等によって利用者の減少に歯止めがかからない状況となっており、国の有識者検討会で、牟岐線の「阿南-牟岐間」「牟岐-阿波海南間」は、危機的状況にある線区として、今後鉄道存続策やバスへの転換等について検討する地域協議会設置の検討対象線区となっております。

こうした中、令和4年11月5日、「JR四国・牟岐線を考える『首長トップセミナー』」と題した勉強会をひまわり会館で開催しました。

本セミナーには、国土交通省四国運輸局から講師をお招きし、令和4年7月に国の有識者検討会で示された「地域の将来と利用者の視点に立ったローカル鉄道の在り方に関する提言」の概要についてご説明をいただきました。

また、今後の牟岐線の在り方について活発な意見交換を交わしました。

牟岐線の在り方については、沿線自治体と地域住民が牟岐線の危機的現状や課題について共通認識を持った上で、自分ごととして捉えて地域の将来像を議論しなければならぬと考えており、今後も、国、県、JR四国等のご協力を頂きながらこのような機会を設けてまいりたいと考えております。



JR四国：牟岐線を考える「首長トップセミナー」

施設の愛称は、親近感のある運動施設との意味を込めた「しんきんサンアリーナ」との提案を採択し、愛称付与期間は、4月1日から令和7年3月31日までとしております。



スポーツ総合センター
ネーミングライツ調印式

阿南市B&G海洋センターへの 指定管理者制度の導入

阿南市B&G海洋センター複合施設（通称「うみてらす北の脇」）について、令和4年10月に指定管理者の募集を行ったところ、2つの団体から応募がありました。これを受け、選定委員会を開催し厳正な審査を行った結果、株式会社linkworks（リンクワークス）の提案内容が、事業運営を安定的かつ継続的に行える計画であり、市民サービスのさらなる向上と利用促進にも寄与する優れた企画提案と認められました。

民間のノウハウを取り入れた施設運営により、本市の海洋スポーツの拠点である「うみてらす北の脇」がさらに多くの市民の皆さまに活用いただける施設となることを期待しております。